外国人をみたらスパイと思え？

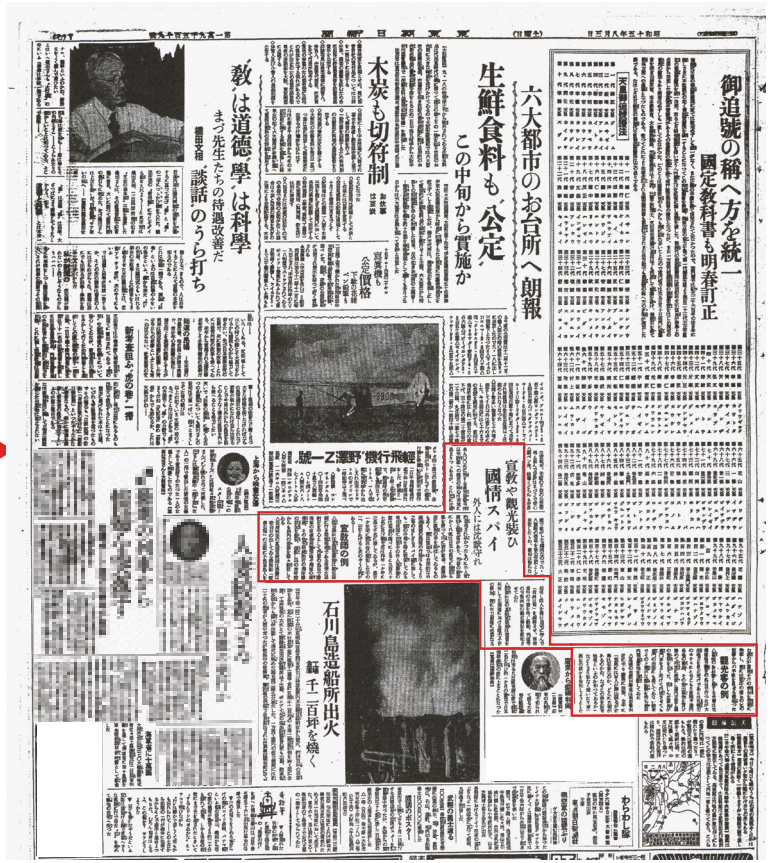
1931（昭和 6）年満州事変勃発，1934 年国際連盟からの脱退により，日本の動向は世界の注目を集めることとなり，それに伴いインバウンドが増加しました。1935 年の新聞紙面には，訪日外国人をスパイ視することは「止めよう」と外務省が警察に求めていると報じていますが，1940 年の新聞紙面には，外国人観光客を見たらスパイと疑えと憲兵当局は注意喚起していると報じています。これは憲兵によるスパイとみなされたイギリス人一斉検挙事件を理由としたもので，わずか 5 年で外国人を排除する空気が醸成されていったことがわかります。※プライバシーに配慮し，記事の一部に加工を施しています

1935（昭和 10）年の新聞紙面

外人客スパイ視を
"止めよう"と懇談
けふ重光外務次官
上京中の警察部長を招く
問題の一二事件
全米に衝動を與ふ
"電氣の家"サヨナラ
アパート住ひ
山本博士も安部式
西日本觀光ルート
山岸また快勝
これで四勝
けふの玉武蔵
總てを賭す
敵へた女生徒と
無理心中をはかる
薄倖の兒に惠む
温い收容所

1935 年 5 月 20 日付『東京朝日新聞』朝刊 11 面（朝日新聞社所蔵，承認番号 22-3176）※朝日新聞社に無断で転載することを禁じます

1940（昭和 15）年の新聞紙面


御追號の稱へ方を統一
國定教科書も明春訂正
六大都市のお台所へ朗報
生鮮食料も"公定"
この中旬から實施か
木炭も切符制
教は道德學は科學
まつ先生たちの待遇改善だ
宣教や觀光裝ひ
國情スパイ
石川島造船所出火

1940 年 8 月 3 日付『東京朝日新聞』朝刊 7 面（朝日新聞社所蔵，承認番号 22-3176）※朝日新聞社に無断で転載することを禁じます